



5歳児後半に見られる姿



友達と思いがぶつかり合うなかで、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いをつける。



友達に気持ちを受けてもらうことで、自分の行動を振り返り、してよいことや悪いことを理解する。



みんながより楽しく遊べるようにルールを作り替えるなど、工夫をするようになる。

この姿につながる5歳までの育ち



2歳児

自我を主張するようになると同時に、玩具の取り合いなどで友達とぶつかるが増え、他者の存在に気づき始める。

3歳児

保育者が思いを受け止めてくれる経験を重ねる中で、徐々に自分の思いを調整できるようになる。

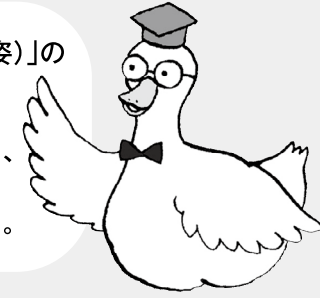


4歳児

気の合う友達ができるようになり、相手に共感したり、思いやりのある行動を取るようになる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」の道徳性・規範意識の芽生え。

ここでは、指針・要領の記載を読み解きながら、5歳児後半で見られる具体的な姿、そして、その姿につながる5歳までの育ちを見てみよう。



やさしい三法令

其の十六

これが変わった!!

幼稚園教育要領

保育所保育指針

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

文言 CHECK!

道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

幼稚園教育要領第1章第2-3(4)より
(保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にも同様の記載あり)

この姿のポイント

◎してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる



文言の前半は「道徳性の芽生え」について述べられておる。道徳性とは、一言でいえば「相手を思いやること」。他者の気持ちを尊重すると、自分の行動の善悪も分かるはずじゃ。これは、友達と深くかかわり、相手のうれしい気持ちや悔しい気持ちに共感していく中で育まれていく。そのためには、子ども自身が共感される経験が必要。保育者は子どもたち一人一人の心に寄り添っていこう。

◎きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる



文言の後半は「規範意識の芽生え」について。規範意識とは、生活上の細かなルールから、「友達をぶたない」といった普遍的なきまりまで、多様な規範に沿って行動しようとする。この意識に至るには、自分だけでなく他者も快く過ごせるにはどうすればいいか、という視点が必要じゃ。とはいえ、幼児期は自我と相手への思いとの間で葛藤中じゃ。保育者は焦ってすぐに答えを提示するのではなく、ゆったりと見守ろう。

僕らは「鳥獣保護法」という規範のおかげで、人間に捕まる心配なく過ごしているよ。



道徳性・規範意識の芽生え

シリーズ 極める! 10の姿

無藤 隆
監修
白梅学園大学大学院特任教授